

「子どもたちが伝える『羅臼』での学び、『羅臼』の魅力」

羅臼町立知床未来中学校 滝 泰 英
(担当：新 屋 典 正)

1 本校のESDの特徴

本校は、持続可能な社会の実現に向けて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質能力を身に付けさせるため、令和3年度のテーマを「子どもたちが伝える『羅臼』での学び、『羅臼』の魅力」として、令和元年度に道教委から指定を受けている「海洋教育パイオニアスクールプログラム」と関連させて取り組んだ。

特に、羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会における、総合学習部会「知床学」を柱に、①クマ学習・生態系学習、②羅臼町と他地域を比較する学習、③羅臼町PR活動を実施した。

2 活動全体計画

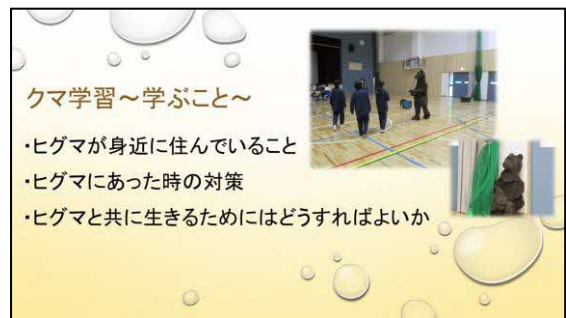
【総合的な学習の時間（ESD）の重点】			
○持続可能な社会の実現に向けて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 ○学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる ○自己の生き方を考えることができる			
各教科	各学年の重点		特別活動
○一人一人のキャリア形成やよりよい社会づくりにどのように生かされるかを見据え、各教科等学ぶ意義を明確にし、育む資質・能力を明確にする。 ○よりよい社会や人生の在り方について考え、学んだことを社会や人生の在り方に生かす。	【1学年】 ○総合的な学習の時間における学び方を習得する ○羅臼町の調査を通して、世界遺産知床の良さに気づく		○将来の自分、また、望ましい集団や社会の成員としての資質を身に付ける自主的、実践的な態度を育てる。 ○人間としての生き方についての自覚を深めるとともに、現在及び将来にわたって自己実現を図る能力を養う。
	【2学年】 ○分析する能力（比較、整理など）の向上を図る ○他地域の風土に直接ふれ、世界遺産知床を抱える自らの郷土を大切にすることを育む。 ○職業体験を通して、自らの将来について考え、自己の生き方を考える		
	【3学年】 ○発信する能力（PR活動など）の向上を図る ○自らの将来（進学、進路）について向き合う ○自らを取り巻く環境（仲間、人材、自然など）についてふり返る		
学年	第1学年(50時間)	第2学年(70時間)	第3学年(70時間)
テーマ	キャリア学習や知床学（海洋教育）などを通して、中学生で必要とされる総合的な学習の時間の学習スキルを修得することができる	キャリア学習や知床学（海洋教育）と関連して地域を大切にすることを育てる。	キャリア教育や知床学（海洋教育）を通して、地域に誇りを持ち、希望する進路の実現のために学ぶ
学習内容	・高校って何するところ ・職業調べ ・表現 ・健康	・職業体験学習（職業人講話、職場体験、発表会等） ・高校卒業後の進路 ・表現 ・健康	・上級学校訪問 ・高校体験入学 ・表現 ・健康
	知床学(クマ学習、クーリング体験、セリ学習、調理体験、ヒカリゴケ学習、中高合同講演会、ユネスコスクール発表会等)	知床学(生態系学習、斜里川との比較、宿泊研修、中高合同講演会、ユネスコスクール発表会等)	知床学(クマ学習、知床パンフレット作成、修学旅行での発信活動、中高合同講演会、ユネスコスクール発表会等)

3 活動事例

① クマ学習・生態系学習

知床財団などの協力を得て、ヒグマの生態を正しく理解するとともに、人間がクマに及ぼす影響を把握し、遭遇した時の対処法などを学んだ。「人とクマが共存する町、羅臼」をデータや実体験などから考える体験型の学習である。

生態系学習では、川や海の周辺に生息する動植物や海と森をつなぐ知床の豊かな自然の全体像を学んだ。知床は独特な地形により、下流でも上流域息の貴重な生物が多数存在することや、地域の環境施設を利用した講義などで学習を深めた。



② 羅臼町と他地域を比較する学習

羅臼町が持続可能な発展のための地域として、どのような行動を行えばよいか調べることを目的として、同じ知床半島を有する斜里町と、スポーツと海産物を地域おこしの基軸に据えた北見市常呂町を訪問し、宿泊研修を行った。他地域と羅臼を比較する学習を通して、改めて羅臼の強みを理解するとともに、この良さを持続可能なものにするため何ができるかを考えることができた。なお、本取組は、令和3年12月4日(土)に本校で実施した、第10回羅臼町ユネスコスクール研究発表会で発表した。



8:40~受付	8:40~9:10 開会式 来賓 羅臼町長 奥野 隆 / 旭川教育長 松田 敬也 様 / 知床ユネスコ協会 会長 川村 啓博 様
9:10~9:30 研究発表Ⅰ 【小学生の発表】	★【羅臼の魅力を学ぶ】 羅臼小学校 6年生 三浦 悠斗・中川 唯空・嶋崎 悠太・嶋 知久・奥村 悠太・横田 知空・川村 葉斗 ★【羅臼の魅力を学ぶ】 羅臼小学校 4年生 大内 遥希・藤澤 心唯・大塚 夢・加藤 真由・山田 悠人・柳山 穂心・川村 新菜 高木 唯空・山本 華音・藤原 希羽・高野 悠斗・永井 美空・渡邊 拓次・廣田 蓮太 相田 愛子・早井 花結・三浦 智珠・田嶋 悠輝
9:30~9:40 9:40~10:10 10:10~10:35 10:40 閉会式	【中学生の発表】 ★【持続可能な発展のための羅臼町のこれから】 知床未来中学校 2年生 「斜里町、北見市常呂との比較を通して」 飯野 翠月 ★【海洋教育成果発表】 羅臼小、旭川小、知床未来中、羅臼高校 水野 彩羽・宮下 あかり・伏見 柚乃・橋本 謙・太田 真・高橋 心結・野村 健 【高校生発表Ⅱ】 ★【羅臼高校で学ぶ地産地消・平和スタディツアーに参加して】 羅臼高校 羅臼高校1年 小村 理次、田中 悠哉 ～10:40 閉会式 挨拶 羅臼町幼中高一貫推進協議会 羅臼町教育委員会 お問い合わせ:事務局(旭川小学校 旭0153-88-2243)

③ 羅臼町PR活動

羅臼町観光パンフレットの配布を通じた、『羅臼町PR活動』を実施している。観光パンフレットは、普段の学習で培った知識・技能をベースに仲間と協働し、考えを深めながら「知床学(海洋教育)」で取り組んでいる。

今年度は「日本一の自然」、「日本最後の秘境知床 魚の城下町」、「ここから始まる感動」など、題された6種類のパンフレットを仕上げた。また、外国人観光客のために全て英語で記載したパンフレットも作成した。生徒達はパンフレットの配布を通じた羅臼町PR活動により、地域内外の大人の方々と触れ合い、社会性を高めている。社会と接することで新たな学びが生まれ、自身を振り返り、見つめなおす絶好の機会となっている。



4 成果と課題

① 成果

「知床学(海洋教育)」を教育課程に位置付け、生徒に身に付けさせたい資質能力の視点を「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力、キャリアプランニング能力」として、教育課程を編成するとともに、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等と関連させて身に付けた資質能力を様々な場面で効果的に生かせるよう工夫を行うことができた。

また、知床財団や観光協会、漁業協同組合等に協力を仰ぎ、「知床学(海洋教育)」の充実を図ることができた。

さらに、羅臼町幼中高一貫推進協会では、YouTubeチャンネルを開設し、羅臼町ユネスコスクール研究発表会の発表の様子を英語版で掲載し、世界中に発信をしている。

② 課題

「海洋教育パイオニアスクール」事業に3年間取り組んできた成果と課題を明らかにし、学校段階間連携を一層強化することで、「主体性」「自己肯定感」の醸成を目指す必要がある。

また、次年度(R4年度)は、羅臼町が事務局となり、海洋教育パイオニアスクールを継続する予定であり、「知床学(海洋教育)」の充実を一層図る必要がある。